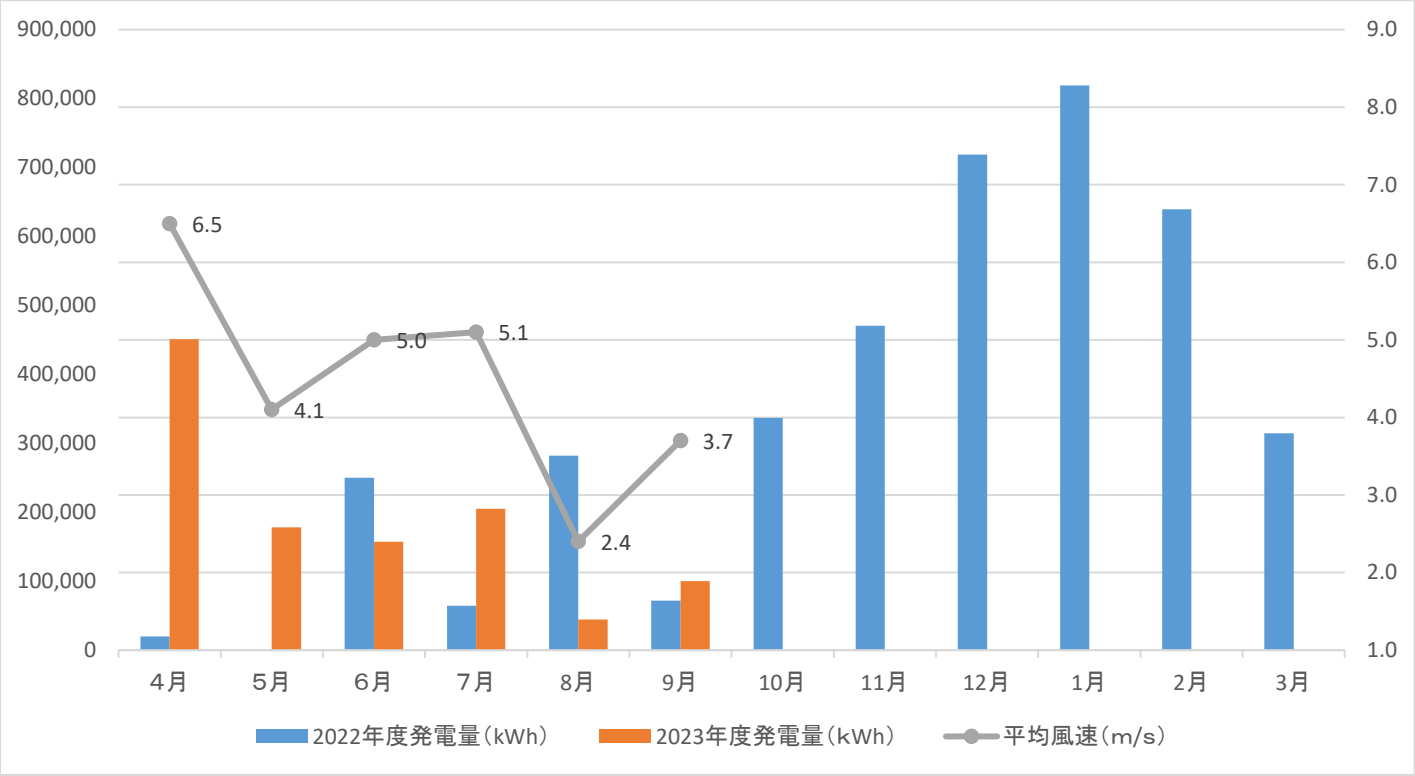
夢風 News

vol.135、136 号合併号　　2023 年 10 月 15 日発行

秋田県にかほ市に生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉が建設した生活クラブ風車「夢風」に関するニュースをお届けします。

〒103-0013　東京都中央区日本橋人形町 3-4-14FORECAST 人形町 PLACE8 階
一般社団法人グリーンファンド秋田
発行責任者　半澤彰浩（代表理事）　編集責任者　鈴木伸予

○ 2023 年度発電実績



８月度運転状況について

○風況は前年同月に比べ低く、想定発電量を下回る実績となりました。

○8/15、東北電力NWの送電線との連系点の引込柱に設置している電力需給用計器用変成器（VCT）のケーブル接続コネクタより発火する事故発生しました。復旧工事と改良工事を実施し、8/22の12時ごろに復旧しました。

９月度運転状況について

○風況は前年同月に比べ0.5m/s高くなりました。

○9/4（月）9:00～9/8（金）16:00までの間、東北電力ネットワーク㈱の要請により解列を実施。※解列とは、発電設備を電力会社の系統から切り離すこと。「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法施行規則」の第14条に基づき、停電に伴う売電補償や解列に係わる費用補償はありません。

○解列に合わせて、風車の11．5年次定期点検を実施しました。

	発電量（kWh）	平均風速（m/s）	稼働率（%）
4月	451,057	6.5	31.5
5月	177,890	4.1	97.6
6月	157,447	5.0	56.0
7月	204,982	5.1	83.1
8月	44,664	2.4	77.8
9月	99,992	3.7	76.1
10 月			
11 月			
12 月			
1月			
2月			
3月			

「純米大吟醸夢風」再開発活動報告

2023 年度、㈱飛良泉本舗と生活クラブ神奈川の組合員が開発した夢風ブランド品「純米大吟醸夢風」の再開発を行いました。

2022 年 7 月に、飛良泉本舗より提案を頂き、生活クラブ神奈川の組合員と一緒に再開発をすすめることとし、再開発に向けた意見交換を行いました。2023 年6月、生活クラブ神奈川の環境平和委員会にて、2種類の再開発品の飲み比べとプレゼンを行い、再開発品の方向性を決定。8 月に、神奈川の組合員 5 名が、秋田県にかほ市の飛良泉本舗の見学と酒米の圃場の見学を実施し、意見交換を行いました。

再開発のポイントは、お酒の造りを「速醸」から、飛良泉の伝統の「山廃」仕込みに変えた事です。時間をかけて自然の力で発酵させる「山廃」仕込みにすることで、よりナチュラルに程よい酸味で食事に合う日本酒になるとのことです。にかほ市産の秋田酒こまちを 50%まで磨き、1801 酵母を使用した華やかさはこれまでと変わりません。

再開発した「純米大吟醸夢風」は 12 月にデビューします。年末年始に、是非、お愉しみ下さい。

※班個配　11/27～12/1 申し込み締め切り。　デポー　12/14 入荷。



中央　飛良泉本舗　齋藤雅昭　専務取締役



にかほ市の子供企画開催報告

8/5、グリーンファンド秋田と、にかほ市と生活クラブとの連携推進協議会の共催で、にかほ市の子供たちへの環境企画を開催しました。

当日の参加者は、にかほ市の小学校 1 年～3年生の親子 10 組。スタッフは、生活クラブ自然エネルギー推進 PJ より、神奈川の佐野めぐみ副理事長と千葉の鶴来亜矢乃理事、にかほ市総合政策課の佐藤周平さん、生活クラブ神奈川の組合員の方が担いました。

まず、金浦公民館をにかほ市のバスで「生活クラブ風車・夢風」の見学に向かいました。

風車サイトでは、安全の為、ヘルメットを着用。メンテナンスを委託している市民風力発電より、風車の大きさや発電の仕組みを教えてもらい、風車タワーの中の見学を行いました。参加者からは、「普段は遠くから見て

いる風車について知り、貴重な体験となりました」「にかほに住んでいても説明など聞いたことがなかったので、知れて良かった。子供にわかりやすく説明したら納得していた。子供も楽しかったと話していた」などの感想がありました。

金浦公民館にもどり、子供たちに向けた、自然エネルギーと生活クラブの取り組みについて佐野副理事長から、にかほ市の再生可能エネルギーについて佐藤さんから行いました。佐藤さんのお話に「石油を掘っていた時代から今までの風景の写真が見られて、変化にとてもびっくりしました」との感想がありました。

最後に、ペットボトルを使ったミニ風車づくり工作を親子で行いました。羽根の長さや角度、ペットボトルの材質によって、風車のまわりやすさが違い、少し苦戦したところがありましたが、子供たちは、羽やタワーに思い思いの色を塗ったり、出来上がった風車をもって走り回ったりと楽しんでいました。

とても暑い日でしたが、「風力発電の仕組みが子供にもわかりやすくて良いと思いました」との感想を頂き、子供企画が無事にでき良かったです。







NPO 法人まちぽっとの取材を受けました

10/20、東京都で市民活動やまちづくり活動の支援を行っている NPO 法人まちぽっとの理事の伊藤久雄（東京自治研究センター元理事）さん、坪郷實（早稲田大学名誉教授/市民政策調査会代表）さん、三浦一浩（生協総合研究所・研究員）さん、小林幸治（市民政策調査会/まちぽっと事務局）さんが、秋田県にかほ市を訪問し、芹田自治会とにかほ市役所の取材を行いました。

芹田自治会では、渡辺会長と荒川元会長に対応いただき、生活クラブと地域住民との関係についてや、今後は芹田自治会の若い人への学習などを行いたいなど、伺いました。

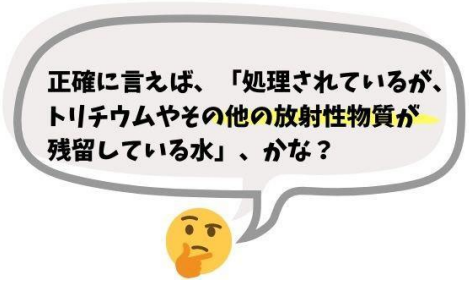
にかほ市役所では、本田副市長、高橋課長、今野班長、齋藤副主幹、佐藤さんにご対応いただき、生活クラブとのかかわりの経過と成果、市民・住民のかかわりや合意形成についてなどの取材があり、にかほ市からは連携の成果の一つとして首都圏ににかほ市を知ってもらうチャンネルが作れたことは大きいと話されていました。

コラム：Q&A「ALPS 処理汚染水」気になるポイントまとめました

Q1 「処理水」？ 「汚染水」？

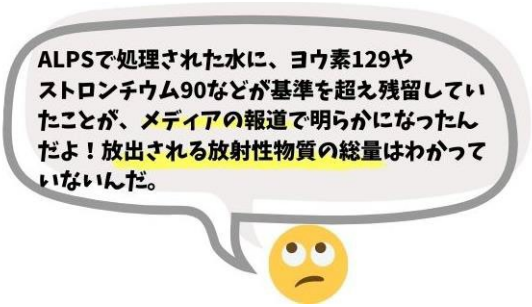
福島第一原発のサイトでは、燃料デブリの冷却水と原子炉建屋およびタービン建屋内に流入した地下水や雨水が混ざり合うことで発生した汚染水を、多核種除去装置（ ALPS）で処理し、タンクに貯蔵しています（ 図1）。その量は、134万m3 2023年7月現在）。

政府・東電は、この水を「ALPS処理水」と呼んでいます。一方で、トリチウムやそのほかの放射性物質が残留しているので（「汚染水」と呼ぶ人もいます。正確には（「処理されているが、放射性物質が残留する水」というべきなのでしょう。しかし、長いので、ここでは「ALPS 処理汚染水」または（「処理汚染水」と呼ぶことにします。（ちなみに、政府は「ALPS 処理水」の定義を「トリチウム以外の核種について、環境放出の際の規制基準を満たす水」としています（ 注1）。しかし、現在、タンクに貯められている水の約7割については、トリチウム以外の放射性物質も基準を超えて残留しているため、「処理水」とは言えないでしょう。



Q3 何が含まれている？

東京電力の発表では、処理汚染水には約 780 兆ベクレルのトリチウムが含まれています 2021 年 5 月時点）。2010 年、福島第一原発から 2.2 兆ベクレルのトリチウムが海に放出されていたので 注4）、その約 350 倍の量となります。



注目すべきは、トリチウム以外の放射性物質も基準を超えて残留していることです。残留しているのは、ヨウ素 129、ストロンチウム 90、ルテニウム 106、テクネチウム 99、セシウム 137、プルトニウム 239、炭素 14 など。

東電の発表により、現在タンクにためられている水の7割弱で、トリチウム以外の 62 の放射性核種の濃度が全体として排出基準を上回っており、最大で基準の2万倍近く（ 注6）となっていることが明らかになりました 。東電は海洋放出する前に二次処理を行い、これらの放射性核種を基準値以下にするとしています。

出典：FoeJapan Q＆A ALPS 汚染処理水 気になるポイントまとめました（2023 年 8 月 1 日版）